

住み継ぐためにリニア駅と富士山駅をLRTで結ぶ

2019.3.4

山梨経済同友会

リニューアル委員会リニア部会

1. リニア駅と富士山駅をLRTで結ぶ
 - ・リニア駅から富士山駅までのLRT想定敷設事業費
総延長 25km、内トンネル区間 15kmとして1,100億円
 - ・LRTによる所要時間、平均速度 50kmとして 30分
 - ・計画LRT 高速充電、架線不要の川崎重工SWIMO

2. さらに富士山駅から富士山5合目までLRTを延伸させる
 - ・SWIMOならスバルラインを使い冬季でも運転可能。

3. さらにリニア駅と身延線をLRTでつないだ上南アルプス、韮崎まで延伸
 - ・延長 20kmとして事業費 600億円

4. 効果
 - ・リニア+富士山観光により県外観光消費額約 3,500億円を7,000億円以上にする。
(平成27年山梨県観光入込客統計調査報告書によると県外観光客消費額約 3,500億円、
現在東海近畿以西入込客はわずか 10%ならず、リニア富士山効果により倍を見込む。)

 - ・国中郡内経済一体化による相乗効果。

 - ・既存鉄道の中央線、身延線、富士急行線をLRTで結ぶ事により、県内全体が軌道系公共交通
で環状的に結びつきリニア経済効果を面的に波及できる。

 - ・軌道系公共環状交通により高齢化、CO2削減に対応した基幹公共交通網を実現し
維持管理費用を県外観光客の利用運賃により補填する。

県内各地から首都圏へ通勤できる範囲を増やし、農地を守りながら夫々の能力を生かせる仕事を自由に選択でき、子供を地域で育てられるインフラを実現する。

リニア広域活用計画

資料3

